

immediate release for project N March 2012

2012年度 ラインナップ決定のお知らせ

project N 49 - 51

artists: 49…関口正浩 (せきぐち・まさひろ)
50…榎木陽子 (えのき・ようこ)
51…阿部未奈子 (あべ・みなこ)

謹啓 このたび、2012年度 "project N" の作家3名が上記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。
"project N" は、当館コレクションの中心作家である故 難波田龍起氏の遺志を受け継ぎ、若手作家の育成・支援を目的として1999年12月に開始した企画です。これまでにご紹介して参りました下記48名の作家は、皆さまのお力添えをいただき、ますます活躍の場を広げています。

1999年度:01 南川史門/02 荻野僚介
2000年度:03 今野尚行/04 SASAKI/05 蛭名優子
2001年度:06 高橋信行/07 北浦信一郎/08 今澤 正/09 田中栄子
2002年度:10 英 裕/11 大塚泰子/12 小木曾瑞枝
2003年度:13 西澤千晴/14 井上 実/15 牧谷光恵/16 中山美央子
2004年度:17 東亭 順/18 高橋将貴/19 小西真奈/20 馬場 恵
2005年度:21 中岡真珠美/22 高木紗恵子/23 森本太郎/24 小林 浩
2006年度:25 ヒラタシノ/26 山川勝彦/27 山内崇嗣/28 富倉崇嗣
2007年度:29 須藤由希子/30 田尾創樹/31 山口聡一/32 名知聡子
2008年度:33 長井朋子/34 近藤恵介/35 ましもゆき/36 原 良介
2009年度:37 阿部岳史/38 山下美幸/39 住田大輔/40 熊谷直人
2010年度:41 喜多順子/42 川見 俊/ 43 河井美咲/44 吉田夏奈
2011年度:45 クサナギシンペイ/46 石井 亨/47 上西エリカ/48 佐藤 翠

つきましては何卒この機会に、"project N" ならびに各展の周知・告知活動にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、各作家についてのより詳しい情報については、お気軽にお問い合わせ下さい。

謹白

[開催概要]

project N 49 関口正浩 2012年4月13日 [金] ⇒ 9月2日 [日]
企画展「BEAT TAKESHI KITANO 絵描き小僧展」/収蔵品展041「難波田龍起・舟越保武 精神の軌跡」

project N 50 榎木陽子 2012年10月3日 [水] ⇒ 12月24日 [月・祝]
企画展「篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN」/収蔵品展042「ナイーブな作家たち(仮題)」

project N 51 阿部未奈子 2013年1月12日 [土] ⇒ 3月24日 [日]
企画展「JUN-ICHI ARAI 美しい布の軌跡(仮題)」/収蔵品展043「自然の表現(仮題)」

会 場 = 東京オペラシティ アートギャラリー 4Fコリドール

主 催 = 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

開館時間 = 11:00-19:00 (金・土は20:00まで。入館は閉館の30分前まで)

休館日 = 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日。ただし5月1日、9月18日は開館) / 全館休館日 (2012年8月5日、2013年2月10日)

入場料 = アートギャラリー入場料に含まれます。収蔵品展入場券 (200円) でもご覧いただけます。

◎ 貴誌にご掲載いただく場合の[問合せ先] = TEL : 03-5353-0756

◎ project N に関するお問合せ:

東京オペラシティ アートギャラリー 吉田(広報)

TEL:03-5353-0756 FAX:03-5353-0776

email:ag-press@toccf.com

ARTGALLERY
TOKYO OPERA CITY

● 49 関口正浩 SEKIGUCHI Masahiro (1984年生まれ／京都府在住)

関口正浩は、シリコン板の上に原色の油絵具を塗り、それが生乾きのうちに薄く引き剥がして、キャンバスに貼り重ねるといった手法で制作を行っている。画面では、上から貼った部分が、逆にそこだけ剥がれて下の層が露出しているように見えるなど、不思議な絵画空間が生まれている。また、引き剥がされた絵具の薄膜は、作家の意図をこえて中空で揺らぎ、捻れて、シワやウキとともにキャンバスに固定される。シワやウキは、薄膜と格闘した作家自身の「行為」の痕跡であり、同時に作品自体のモノとしての性格を露呈させる要素でもある。薄膜の貼り合わせというシンプルなアイデアによって、平面メディアとしての絵画の根源を見極めようとする関口に注目したい。

◎ 主な個展は2010年「平面B」(児玉画廊、東京)、11年「反転・回転・反復」(児玉画廊、東京)。主なグループ展は07年「LOCA2007」(京都市立芸術大学、京都)、09年「ignore your perspective 7」(児玉画廊、東京)、10年「Is next phase coming?」(児玉画廊、京都)、11年「VOCA展2011 新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京)など。



《崩れる旗 #3》
油彩、綿布
227.3 x 1818 cm / 2011
photo: Rui MIZUKI

● 50 榎木陽子 ENOKI Yoko (1978年生まれ／東京都在住)

どことも知れない都会の街角、人で賑わう店先、飲みかけのビールが置かれたテーブル。きわめて日常的な光景でありながら、榎木の絵画は物語の存在を濃密に感じさせる。ベルギー・アントワープで留学生活を送ったことは、榎木の作品に強い象徴性が見られることと無関係ではないだろう。市井の人びとの間に潜むドラマや、都市の中にただよう気配といった、五感を超えて感知される事象が画面から立ち上り、鑑賞者はそこに流れるストーリーを想像せずにはいられない。

榎木はしばしば制作にあたってプロットを用意する。project Nに際して制作する新作は、震災の経験を出発点としてSF(サイエンス・フィクション)を題材とし、その中で語られる思想や時制、理不尽な状況、人びとの連帯などをテーマとした連作となる予定である。

◎ 主な個展は06年 De Queeste Art (ワータウ、ベルギー)、08年 「50/25」(Cypres Galerie、ルーベン、ベルギー)、09年 「遠い瞬間」(ギャラリー砂翁、東京)。主なグループ展は06年「ELIA/Bijloke」(アントワープ)、07年 「Temporary City」(ローケレン、ベルギー)、08年「トーキョーワンダーウォール公募2008」(東京都現代美術館)、10年 「Spirits and Landscapes」(Grimmuseum、ベルリン)など。



《コミック》
油彩、キャンバス
65.1 x 53.0 cm / 2011

● 51 阿部未奈子 ABE Minako (1974年生まれ／東京都在住)

一貫して風景画を描く阿部未奈子。実際の風景を撮影してコンピュータに取り込み、エフェクトをかけて揺さぶった後、マスキングテープで保護したキャンバスにローラーで描きうつす、という手法による画面は、版画と見まがうほどに平面的である。風景は細部を失って静かに広がり、同時に大きな動きを内包している。私たちが風景を見て、記憶するという行為は、目に見えない空気を含む読み取りと抽象化、そして編集であることを阿部の絵画は示している。

阿部の制作における試みとは、彼女自身が見て記憶する「リアルな」風景を、絵画として成り立たせることで、見ることの仕組みを問うことである。初めて観る人にも親しみを感じさせるこの抽象的な風景は、抽象性が私たちの目の本質であることを語っている。

◎ 個展は06年(ベイスギャラリー、08、10年)。グループ展は04年「東京藝術大学卒業・修了作品展」(東京藝術大学大学美術館)、07年「Landschaft」(ヴァイスフェルト、東京)、「Young Japanese Landscape」(Museum of Young Artist、ウィーン)。



《Scene no. 28》
油彩、キャンバス
91.0 x 91.0 cm / 2011
courtesy: artist and Base Gallery